

## 近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

## 第137号

## 目次

1. 2024年度総会のご案内・・・・・・・・・・1
2. 2024年度総会の議決について・・・・・・・・2
3. 2024年度会費納入のお願い・・・・・・・・3
4. 「ヒラカワ滋賀事業所ボイラと工場の見学会」  
寺島俊之・・・・・・・・3
5. 学会誌の電子ジャーナル公開について・・・・4
6. 2023年度第5回役員会議事録・・・・・・・・4

## 2024年度総会のご案内

近年、高輪築堤跡や神戸海軍操練所跡など重要な近代遺跡の発掘が相次いでいます。今総会では、近代の埋蔵文化財調査と近代化・産業遺産調査とのかわりに焦点を当てて、講演と見学を開催します。特別講演会では、考古学がご専門で、近代の遺産調査や産業考古学にもかかわっておられるお二人お招きして、ご講演をいただくとともに今後の産業考古学の課題について率直な意見交換を行いたいと考えます。

芦屋市では、ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅、1924(大正13)年築、設計：フランク・ロイド・ライト、重要文化財）敷地内で発掘調査が行われ、温室、渡り廊下、滝や池などの遺構が発見されました。また、同館は、2016(平成28)年から19(平成31)年にかけて保存修理工事が行われました。今回は、この文化財の埋蔵物発掘調査や建物修復工事の解説をいただきながら、調査現場や同館内部の見学を実施します。

- ・開催日：4月20日(土)
- ・会場：大手前大学史学研究所（3階、R33教室(文化財科学実験室)）
- 後援：大手前大学史学研究所

- ・午前の見学会：阪急電鉄「芦屋川」駅・改札口、9：30集合

※集合時にヨドコウ迎賓館内部見学のグループ分けと費用の徴収を行います。

[費用] ヨドコウ迎賓館入館料：500円（65歳以上400円）、資料(見学・梗概集)代：500円。

- ・見学先：

ヨドコウ迎賓館：

[内部見学] 10：00～ 少人数のグループに分かれて、岩井館長と竹村氏（特別講演者、後述）のご案内で見学します。岩井館長とのグループでは、2016年から19年にかけて行われた館の保存修理工事の解説もさせていただきます。

[発掘調査現場] 11：00～

発掘調査に携われた竹村氏の解説で見学します。

移動：ヨドコウ迎賓館→JR「芦屋」駅（12：08 発に乗車）→同「さくら夙川」駅（12：10 着）→大手前大学史学研究所（徒歩で12：30頃到着）

※途中、官設鉄道芦屋川隧道跡、阪神大洪水芦屋川決壊之地石碑、徳川大坂城東六甲採石場の石材、芦屋仏教会館（外観）、旧阪神国道線軌道跡・同森具停留所跡を見ます。

昼食：持参した軽食を会場で摂ることができます。付近にスーパー、コンビニがありますが、食堂はありません。

- ・会場受付開始：12：30

- ・「見学あとと思い返し休憩余談」（30分間）

橋本健治氏（本会会員）

昼休憩時間(12：40頃～)に、午前中に見学したヨドコウ迎賓館についてお話をいただきます。

- ・総会：13：20～13：50

挨拶：中山会長、司会：岡田副会長

以下の講演会はハイブリッド方式で行います。

・特別講演会 ①：14：00～15：10

「兵庫県芦屋市域における近現代考古学の調査研究」  
竹村忠洋氏（芦屋市国際文化推進室・学芸員）

兵庫県芦屋市の前身・精道村は、明治末から昭和初期にかけて農村から大阪・神戸の郊外住宅地へと発展しました。今回は、芦屋市域の近代遺跡（芦屋川水車場跡、ヨドコウ迎賓館等）の発掘調査成果をはじめ、近現代考古学の調査研究を紹介していただきます。

・特別講演会 ②：15：20～16：30

「兵庫県内の東海道本線および山陽本線に残る煉瓦造構造物」 鈴木敬二氏（産業遺産学会理事、兵庫県立歴史博物館 館長補佐兼事業企画課長・学芸員）

①山陽本線や阪神間の東海道線に残る煉瓦造構造物とその変遷や多様性、②考古学的手法による産業遺産へのアプローチ、考古学と産業考古学との関係等についてお話していただきます。



写真1 現存する付属建物と付属建物跡発掘調査現場  
（提供：芦屋市国際文化推進室）



写真2 玄関・車寄せ（撮影：2024/3/29）



写真3 応接室（撮影：2024/3/29）



写真4 食堂（撮影：2024/3/29）



写真5 東洋陶器株式会社（現 TOTO 株式会社）製の洗面器具  
（撮影：2024/3/29）  
※館内には 1921～28年の商標が記されたものが2台ある。

**2024 年度総会議案の議決について**

2020 年度から昨年度までの4年間、新型コロナウイルス禍のため、特例措置として総会議案のメールや書面による議決（書面議決）を行ってきました。同感染症の法的的位置付けの5類移行に伴い、会則に基づく通常の見解に復帰することになります。

しかし、別紙「会則変更のお願い」にありますように、上記「書面議決」方式には長所が認められるため、現行会則を変更した上で、書面議決方式を採用する提案をさせていただくことになりました。そのため、以下の手続きを踏んで議決をいたします。

①「**会則変更議決 委任状**」（総会を欠席される場合は、提出して下さい。）

※現行会則の変更が必要です。

②「**議決議案 賛否記入書**」（総会への出席・欠席にかかわらず、提出して下さい）

※「会則変更議案」が可決された場合、その後に行われる議決の際に使用します。

**【メール配信で本紙を受けとっておられる会員】**

配信メールの記入欄に記入の上、メールで事務局宛にご返信ください。4月19日(金)必着でお願いします。

**【郵送で本紙を受けとっておられる会員】**

同封はがきの記入欄に記入の上、ご投函ください。

4月18日(木)必着でお願いします。

※確認に時間を要するため、メール返信よりも1日早めています。

## 2024 年度会費納入のお願い

2024 年度会費の納入をお願いします。納入のご案内と振込用紙を郵送しますので、郵便局の ATM か窓口で振込手続きをお願いします。手数料はご負担下さい。

未納のある方には、過年度分も併せた納入のご案内と振込用紙をお送りしていますので、よろしくお願いします。前納いただいている方には、案内を差し上げていません。

### 「ヒラカワ滋賀事業所ボイラと工場の見学会」見学記

寺島俊之

- ・開催日:2024 年 3 月 6 日(水) 12:50~16:00
- ・集合場所:東海道本線(琵琶湖線)野洲駅
- ・参加者:12 名

#### 【見学対象と見学行程】

- ①ボイラ歴史の概要説明:「ボイラ製造における職人技 – ボイラ屋の意気込みと心意気–」(株式会社ヒラカワ技術本部開発室)
- ②案内ビデオ:「MP ボイラの製造工程」
- ③工場見学
- ④屋外展示ボイラの見学
- ⑤質疑応答

京都駅から新快速で約 30 分、野洲市は滋賀県南部の湖南地域に位置する。米作りを中心とする農業が主産業であったが、近年、電気機械器具製造業等が進出し、宅地開発も進んでいる。

株式会社ヒラカワ(本社大阪市)は 1912(明治 45)年に創業したボイラ専門メーカーである。今回見学する滋賀事業所は 1962(昭和 37)年に開設された。近江富士と呼ばれる三上山の麓に位置し、国道 8 号に接する。

野洲駅から滋賀事業所まで送迎バスで約 10 分、執行役員滋賀事業所長兼工場長の橋口豊司様に出迎えて頂き、ボイラ技術開発センターセミナールームに案内される。

一般的なボイラの定義は、密閉した容器内に水または熱媒(特殊な油など)を入れ、これを火気、燃焼ガスその他の高温ガス(廃ガス、高炉ガス等)または電気によって加熱し、高圧の蒸気または温水を作り、これを他に供給する装置である。

蒸気機関は 1700 年代のイギリスで工業的応用が始まり、産業革命の推進力となった。ニューコメンからワットに至る草創期は、ボイラで発生する蒸気圧は低く、蒸気を凝縮させて生ずる真空と大気圧との圧力差を動力源とする大気圧機関であった。高圧蒸気を発生するボイラと、その高圧蒸気を利用する蒸気機関が出現するのは、コルニッシュボイラや蒸気機関車が出現する 19 世紀に入ってからである。それ以降、動力源や熱源として、工場、輸送手段、発電所などさまざまな産業分野・用途で用いられてきた。

今回のテーマは、実物展示を通してボイラの発展をたどり、現在の製造現場を見学することである。

橋口事業所長の案内で工場内を見学する。ヘルメッ

ト着用で無断撮影は禁止であった。



写真 1 モリソン加工機の前で橋口所長のご説明を受ける  
(撮影:寺島俊之)

※同加工機は、大口徑の円筒状の炉筒面を内部と外部の金型によってプレスして波形に加工する特殊なプレス機である。「モリソン」は波形の名称である。

同社は、高品質で長寿命な製品を生み出すため研究開発から保守に至るまでの自社一貫体制に基づいた受注生産を行っている。

生産品目と主な用途は以下のとおり。

- 1) 蒸気ボイラ:乾燥や加熱、滅菌消毒など
- 2) 温水ヒータ:プールや地域冷暖房など
- 3) ボイラ関連製品:附属設備や制御装置など

ボイラの生産ラインは以下のフローとなる。

①資材調達・切断→②加工→③溶接→④煙管取付・拡管作業→⑤水圧試験→⑥組み立て・装備→⑦完成検査・工場試運転→⑧設置工事(現地作業)

NC 工作機械など工作機械も多く設置され、職人技を活かしながらも自動化された工程となっている。また、製品別に資材搬入から工場出荷まで同一フロアとするヤードプランであった。

引き続き、屋外展示ボイラを見学する。実機が 6 台で試験機が 6 台である。最古機はコルニッシュ型(実機:1880 年代)で、最新機は DME(ジメチルエーテル)燃焼試験用機(試験機:2002 年)である。すべての展示に解説板が設けられているが、これらの文章と写真をまとめたパンフレットがあれば良いと感じた。

実機では、皇居新宮殿(東京)で使用された、炉筒煙管式 MP-UR50(1965(昭和 40)~1993(平成 5)年)が注目を集めた。試験機では水管式 HL-小型三胴式(1942(昭和 17)年)が貴重である。これは大阪発動機製造(現在のダイハツ工業株式会社)向けに、南滿州鉄道向け蒸気機関車の部品である立型蒸気給水機の工場試験用に製造されたボイラである。機械遺産級とのコメントが参加者からあった。

セミナールームに戻って質疑応答に移る。屋外展示は学校見学等で受け入れを実施しているが、屋根の設置は消防法との関係で現状困難との回答であった。

これほど多数の歴史的価値をもつ展示は他では見られない。保存状態も比較的良好で、解説板も整備されており、貴重な展示施設である。

帰路は野洲駅まで社有車で送って頂き 16 時に現地解散

した。橋口豊司様には社有車送迎をはじめ、大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。



写真2 宮内庁向け炉筒煙管式ボイラ (撮影：寺島俊之)



写真3 水管式HL-小型三胴式ボイラ (撮影：寺島俊之)

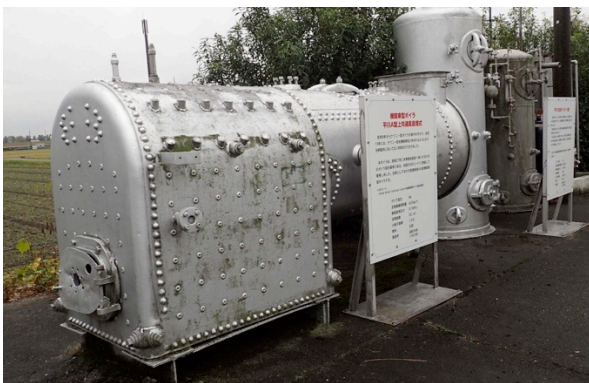


写真4 機関車型(ケワニー) ボイラ 平川A型上向通風直煙式 (撮影：二階堂達郎, 2023/11/10)

※蒸気機関車の据え付けタイプのボイラで、燃焼ガスが通る多数の煙管によって水を加熱して蒸気を作る。

### 学会誌の電子ジャーナル公開について

科学技術振興機構(JST)より提供された2024年1・2月分のアクセス統計(クローラーによるアクセスを除外)の概要です。

- 2024年1月(公開論文数:26) :  
書誌事項へのアクセス数:合計 283回  
全文PDFへのアクセス数:合計 460回  
(アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;35回,  
全文PDF;64回)
- 2024年2月(公開論文数:26) :  
書誌事項へのアクセス数:合計 227回  
全文PDFへのアクセス数:合計 425回

(アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;66回,  
全文PDF;65回)

### 2023年度第5回役員会議事録

日時:2024年1月17日(水),19:05~20:35,オンライン開催(当初予定の1月10日(水)を1週間延期)

参加者:中山会長,岡田副会長,貝柄幹事,寺島幹事,二階堂幹事,溝口幹事,若林幹事

議事:

1. 前回役員会議事録の承認
2. 入会承認  
久岡道武氏の入会が承認された。
3. 見学会  
①ボイラーの展示と工場(ヒラカワ滋賀事業所),  
②醸造酢工場(ミヅホ株式会社),③津田電線,④住友銅吹所遺構の4案が提案され,具体化について討議。
4. 2024年度総会開催・議案議決方法  
日程(確認):4月20日(土),13:30~.  
役員異動;瀬川健氏(会計監査)を除いて改選  
会場;大手前大学史学研究所,講演;ヨドコウ迎賓館・発掘調査に関連して,芦屋市文化財保護担当者に依頼。見学先;ヨドコウ迎賓館,芦屋市の文化財。
5. 2023年度年次大会(報告)  
参加者:見学会;15名,特別講演会;実参加者16名(オンライン参加者:2名)
6. 学会誌18号原稿  
申込締切日:論文(査読付)受付終了,論文以外2024年2月29日。
7. 学会誌17号原稿  
編集済。掲載予定原稿(すべて提出済み)
8. 学会誌電子ジャーナル公開(報告)
9. ニュースレター136号  
1月下旬か2月上旬に発行予定。
10. 調査・研究について(報告)
11. その他  
堺鉄砲鍛冶屋敷の公開,住友倉庫(神戸新港地区),倉庫業について意見交換。  
次回役員会:2024年3月6日(水),19:00~

2024年4月5日発行

編集 近畿産業考古学会 編集委員会

発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦

URL:https://kinias.jp

事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号

大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室気付

Tel:06-6381-8434(代), Fax:06-6382-4363(代)

E-mail:kinias-ec@nifty.com

会費納入先(郵便振替)

口座番号:00950-9-150085,加入者名:近畿産業考古学会